

社会科の授業の組み立ての基本

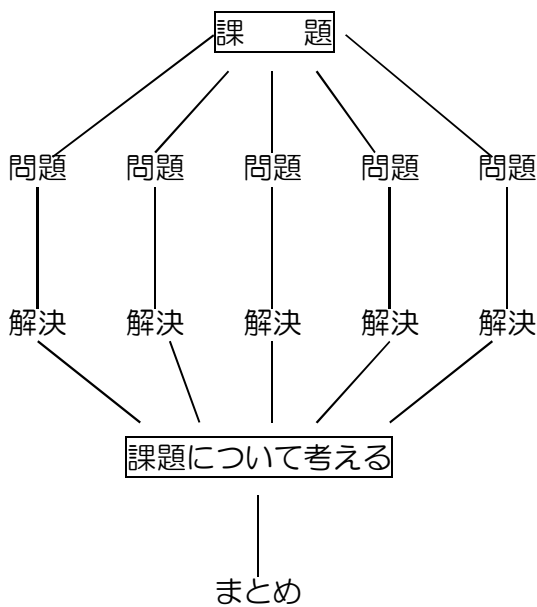
1. 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す。

- ①地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ②社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択、判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- ③社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていく大切さについての自覚などを養う。

2. 授業展開（単元の流れ）

（その1）



※課題は、単元全体についての課題であり、「子ども仕様の課題」にする。
そして、単元全体の見通しを子どもに持たせる必要がある。

（その2）

導入課題（教師側から与える）

疑問（つぶやき・感想）

解決

新しい疑問

解決

新しい疑問

（切りのいいところでまとめる）

※子どもをつぶやきや授業後の感想をうまくつなぐ必要がある。

○いずれの展開にしても、「調べ学習」をとり入れる必要がある。その「調べ学習」の方法は、教材内容や資料、子どもの実態によって工夫する必要がある。

※どの展開においても仮説を立てさせるようにしたい。

「当てもの」みたいになってはいけない。

※1時間1時間は、問題解決的学習展開となる。

3. 子どもたちにどんな力をつけたいか。(問題解決能力)

- わからないことがあれば、それを自らの「学習問題」として設定することのできる力
- 「学習問題」に対して自分なりに予想したり、仮説を立てたりすることのできる力
- 予想や仮説を立証していくために、どのような情報を集めたらよいか、どのような手順や方法で調べたらよいかを考えることのできる力
- 収集した情報の価値や限界に気づき、必要な情報・資料を取捨選択することのできる力。
- 資料を分析したり、比較したり、総合したりして、自ら追求している学習問題に対して自分なりの結論(考え)を生み出すことのできる力
- 自分の出した結論を他の人の結論などと比べたりして吟味することのできる力
- 残された問題や出した結論の限界に気付くことのできる力

※考えることが社会科の学習の楽しさであり、醍醐味である。
 人それぞれ考えがあって、価値観がある。それらを伝え合い、話し合い、核心にせまる。そんな授業が構築できればいい。

4. 学習過程の原型(1単位時間の流れ)

問題意識	過程	留意事項など
1. 出し合い、つかむ ①学習課題をつかむ— 導入資料 ・おかしい、ふしぎだ、なぜだろう。 ・どんなことがわかればいいのだろう。 子ども仕様の課題にする ・これがわかればいいのだ。 一つやってみよう。	<b style="color: red;">問題に直面 <b style="color: red;">問題の主体化 ・問題の意識化 ・問題の内容分析 ・問題点の確認	・学習者が、既存の知識や技能では解決できない「矛盾やズレが生ずる事実や教材を提示する。 ・問題に気づくようなヒントや助言を与える。 ・どれどれのことがわかれば(できれば)よいのか、わかっていること(できること)は、どれどれか問題を分析し、所在を明らかにする。 ・解決すべき問題を自分自身の問題として明確にとらえさせる。
②予想を立てる。 ・こうではないだろうか。 きっとこうだろう。	<b style="color: red;">解決の予想 ・解決時の見通しをもつ。	・既存の知識や技能<それらの獲得の仕方等を駆使して、結論や解決時の見通しを持たせる。 ・「根拠→推論(作業)→結論」について説明を求める。
③調べ方を決める。 ・どうすればわかる(できる)のだろう。	<b style="color: red;">解決の計画 ・必要な資料とその所在 ・解決の順序と方法(活動・形態)	・解決のための方法(活動)は、直接経験(体験)を重視する。

<p>2. 調べ確かめる。— 中心資料</p> <p>④ひとりで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやってみよう。 ・自分なりにまとめよう。 <p>主観的解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これでよいのだろうか。 	<p>解決の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に従って個別活動 ・個別活動のまとめ ・解決の結果や解決の仕方のふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が空転しないように時々「何のために」を意識させる助言が必要である。 ・短い言葉や文・絵図などの表現活動によってまとめさせる。
<p>⑤みんなで確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと話し合って確かめてみよう。 ・ここが違っていた。 ・こう考える(する)とよいのだ。 <p>客観的解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よしわかった(できた)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同学習による解決の決定 ・予想との結合 ・解決結果の確認(教師の断定) <p>解決の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般化・法則化 ・既有体系への整理と統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的解決を客観的解決にまで高める。 ・みんなで確かめる必要性 <ul style="list-style-type: none"> ①結果を出した根拠に誤りがあるかもしれない。 ②根拠→結果の推論(作業)の過程に誤りがあったかもしれない。 ③他の類似の事態に適応できるかどうかわからない。
<p>3. つかう</p> <p>⑥つかう 確かめ資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの問題もやれるだろうか。やってみよう。 	<p>解決の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習・適用・応用 ・新問題の発見(次单元へ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事柄に適応させたり、応用させたりする。 ・新しいめあてをとらせさせる。

5. 授業の実際

1. 単元導入資料

- 絵や写真や統計資料等を見て気付いたこと、疑問に思ったこと、調べてみたいと思ったことを発表する。
それをもとに単元計画を立てる。内容は、精選する。
並べ方は、教科書通りとする。
子どもから出なかった事柄については、こちらで追加する。
- 次時に単元計画を子どもたちに知らせる。
- 導入資料を出発点にして、単元の学習が進む。(単元の流れ「その2」)

2. 毎時間の授業

①本時の導入資料を示す。

- 調べたいことや疑問等を出し合い、本時の課題を決める。(設定型)
- 本時の課題を示す。(提示型)

②本時の課題

- 「〇〇について調べて、△△について考えよう。」
(調べて知る内容とそこから考える内容を提示する。)
- 予想が入る場合もある。

③調べる項目と調べる範囲を示す。(教科書のページ・資料集のページ・PC 等)

- 調べる内容の中に、子どもの疑問や調べたいことも入れる。

④調べ学習(各自)

⑤発表

- 調べた内容の発表：板書→子どもたちは、自分のノートに補足や修正をする。

⑥△△について考えをかく。

- 調べたことを根拠に自分の考えをかく。

⑦交流(話し合い)

- グループまたは、全体で
- 自分の考えをかせかせてから発表させるのがよいが、はじめは、なかなかかけないから、一斉指導の中で意見を言わせて、板書して、まとめる。

⑧本時の感想

- 感想の視点を与えてもよい。

※子どもの疑問や調べたい事柄が、授業に載せられない場合は、指導者が簡単に説明する。

※授業を組み立てる場合は、
まず、話し合う内容を決める。
→そのために必要な事柄を決める。(項目)
→項目が出しやすいように導入資料を考える。

6. 特に高学年では、ノート指導が必要である。

授業とノートは、密接に結びつく。

どのようなノートを書かせるかは、どのような授業をするかによって変わってくる。

社会の授業の具体

社会は、知識がほとんど。高学年になるほど調べ学習が多くなる。教科書は、調べ学習の内容しかない。調べるには、調べる目的がある。調べて、何かを考えないと意味がない。しかし、考える内容については、書いていない。教科書の「考えなさい」は、答えが、教科書にかいてある。それでは、考えたことにならない。調べた資料を根拠に何を考えさせるかそれを決めて学習すると楽しくなるのではないかと思う。

3年

T:P1/2 を読みます。大切なところには、線を引きましょう。

(導入) 本時の学習のきっかけ (絵・写真・資料など)

T:P1 のグラフを見ましょう。どんなことがわかりますか。

C:人口がどんどん増えていっているけど 1945 年だけ減っている。

T:なぜでしょう。→C:戦争があったから。

T:そうです。戦争があったから人口が減ったのです。そのわけを考えたり、その当時の人々の暮らしについて今日は勉強します。

(問題把握) 調べる内容とそれを使って考える内容を示す。

T:今日のめあてです。戦争のころの神戸の街や人々の暮らしについてしらべ、もし、この時代にあなたの方がいたらどんなことを考えどんなことをしたかを考えます。(短い文で)

(予想) 予想が入る場合がある。

(調べ学習)

T:では、調べる内容です。(項目を示す)

※はじめは、一斉でやるが、ここは、子どもに任せて調べ学習になるように考えていく。

子どもの発表を簡単な言葉で黒板にまとめていく。

子どもに調べさせたときは、不足分を赤で、付け加えるように指示する。

①空襲警報：防空頭巾・防空壕(ちいちゃん)

②集団疎開：子供たちが田舎へ。親と離れ。

③神戸大空襲：神戸市全体。焼野原。多くの人が死んだりけが。鉄道や市電が止まる。
船の出入りがなくなる。火垂るの墓。

④学校：運動場は、畑。給食なし。ふかし芋。雑炊。ひもじい毎日。

⑤防空壕：爆弾が落ちて大丈夫と思われるところ。穴。ちいちゃん。

※補足説明を加えていく。なぜ人口が減ったのかは、調べ学習の中に入れていく。

T:だいたいどんな世の中だったかわかりましたか。こんな世の中で、もしあなたがいたら、どんなことを考え、どんなことをしたでしょう。想像してかきましょう。

C:ノート。調べたことを根拠にしてかけるとよい。討論する内容が入ってくるときもある。

C:グループ→発表

(今日の感想)

T:このほかに調べてみたいこと知りたいことをかきましょう。

6年 2時間

1. 課題：室町文化について調べ、なぜこの時代にこんな文化が発達したのか考えよう。
2. 導入：P114/115/116/117の写真と説明を見る。
3. 室町文化について次のことを簡単に説明しよう。

①どんな文化か？

武士を中心。貴族の文化＋大陸の文化。力強さ、簡素。

- ②田楽：田植えのときに働く人たちを励し、楽しませる踊り。
- ③猿楽：こっけいな踊り
- ④能：物語など劇にして、歌や音楽に合わせて面をつけて舞う芸能。
義満→観阿弥・世阿弥
- ⑤狂言：主人と家来の対立などをこっけいに演じたもの。
- ⑥絵本：浦島太郎・ものぐさ太郎
- ⑦茶の湯：茶を飲む習慣。町や村
- ⑧生け花：書院造りの床の間に飾る。
- ⑨水墨画：雪舟・ふすま・掛け軸・墨だけでかく
- ⑩雪舟：大内氏の絵師・中国で勉強・常栄寺
- ⑪その他

※最低これぐらいは調べさせる。資料集・PCで調べてもよいということにする。

4. 発表（ここから2時）

説明を加えながら、板書していく。教科書の写真も参考に。
子供たちは、自分の書いたものに不足分を書き加える。

5. なぜこんな文化が発達したのだろうか。（話し合い）

平和。戦いがないので武士は暇。お金があった。不満な武士は、少ない。
農民も武士も豊かな暮らしができた。など